



綿花栽培でのボランティア受入れ

(特非) ザ・ピープル

福島県いわき市・広野町を中心とする 学校教育現場等での環境保全型農法による 綿花栽培を通した環境教育の実践と産業化に 向けた整備事業 STEP1-3

復興支援助成

3年目

実践

栽培の継続、実施、
拡大の参加校数

31校

栽培
ボランティア数

2,577人

活動の全体目標に
対する達成度

75%

課題

原発事故の影響により、福島県いわき市や双葉郡において農業が追い込まれた困難な状況。学校教育の現場で、コットン栽培を有効な教育ツールとして活用しきれていない現状。

目標

いわき市などで育つ子どもたちが環境保全型の綿花栽培を通して、地域の農業や震災についての理解を深める。有機農法での綿花栽培の進展により、原発事故被災地における福島県農業のオルタナティブな形を描く。

活動内容

いわき市内、広野町の小中学校など31校でのコットン栽培の実施。児童生徒向けと教員向け栽培マニュアルの整備と使用を通してのヒアリングに基づく改良。現有圃場面積の中で栽培技術向上によるの収量アップを目指す。商品としては、コットンパイプという種付き綿の人形の制作が避難女性たちの手仕事として一定の成果を生み出した。来訪者援農ボランティア数2,577名。雇用者数4名。



学校教育の実践
小中学校でのコットン学習

達成できなかったこと

栽培面積の大幅な拡大と来訪する援農ボランティア数の維持確保。震災体験の風化の進行が想定以上に早く進行したことと、事業の収益性を確保することの難しさ。

今後の展望

少しずつ事業としての安定した方向性が見えつつあり、継続を図りたい。また、原発事故の帰還地域内でのコットン栽培の動きがあり、支援を計画している。

成果と工夫した ポイント



成果

いわき市内の小中学校でのコットン栽培が、本事業2年目に大きく拡大したことで、コットン栽培を通した産業・環境・農教教育の提供が促進された。栽培技術向上による収量アップを目指したところ、2012年と比較して10倍の収量を確保。商品としては、コットンパイプという種付き綿の人形の制作が避難女性たちの手仕事として一定の成果を生み出すとともに、教室の講師役を勤めることで自立心を高める効果も生んだ。

工夫

学校現場での使用感をヒアリングした上でのコットン栽培指導マニュアルの改良を実施。